

# 平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 30 年 11 月 20 日  
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名                    レタス黒根病（仮称）  
病原菌学名                    *Thielaviopsis basicola*（糸状菌）

2 発生作物                    レタス

## 3 発生経過及び状況

平成 30 年 6 月に県東部地区において、レタスの根が褐変し、生育不良となる症状が発生した。根からは糸状菌の 1 種が高率に検出され、形態的特徴から *Thielaviopsis basicola* と同定された。また、本菌を健全なレタス株に接種すると、根部に褐変症状が再現された。

以上より、当該地区に発生したレタスの生育不良の原因は、レタス黒根病（仮称）であることが明らかとなった。

## 4 発生状況

- (1) 海外では、アメリカ合衆国やオーストラリアで発生が報告されている。
- (2) 国内では、平成 28 年に群馬県で初めて発生が確認され、平成 30 年 5 月に病害虫発生予察特殊報が発表されている。また、レタス以外では、だいず、にんじん、たばこなどで本菌による病害が報告されている。

## 5 病 徴

- (1) 地上部は、萎れや生育遅延などの症状を示し、症状が進むと結球しないなどの著しい生育不良となる（図 1）。
- (2) 根部分は、軽症株では根の一部が褐変、隆起し根表面に亀裂が生じる（図 2、3）。症状が進むと、根全体が褐変し、細根が腐敗脱落する。

## 6 発生生態及び伝搬方法

本菌はキク科、マメ科、セリ科、ナス科など広範な種類の植物に感染する土壌伝染病菌である。本菌は罹病部に孢子（分生子（図 4）や厚壁孢子（図 5））を形成して、罹病残渣とともに土壌中に残って伝染源となる。また、厚壁孢子は耐久性があり、土壌中で長期間生存して、次作以降の伝染源となる。

## 7 防除対策

- (1) 現時点で、本病に対する登録農薬はない。
- (2) 連作により土壌中の病原菌密度が高まるため、過度な連作を避ける。
- (3) 強風や大雨等により、被害残渣や発生ほ場の土壌が飛散・流出すると、発生地域を広げる原因となる。ほ場周縁部や休耕地には麦類を栽培したり、防風ネットを張るなどして、風雨による土壌の拡散を防止する。また、ほ場には明きょを設け、大雨による土壌の流出を防ぐ。

(4) 病原菌の持ち込みを防ぐため、発病ほ場で作業した後は、続けて他のほ場で作業を行わないよう注意する。作業終了後はトラクター等の農機類や長靴等に付着した土壌の洗浄を徹底する。

## 8 その他

不明な点は、病害虫防除所に相談する。



図1 発病ほ場における生育不良株



図2 レタス根部の褐変症状



図3 隆起して亀裂の入った根の褐変部位



図4 病原菌の分生子



図5 病原菌の厚壁孢子